

2023-5-1  
No.1088 500円

# 思想運動

HOWS報告:労組の朝日友好運動 2面  
 徴用工問題で労組が戦犯企業を糾弾 3面  
 宮古島を最前線基地にした大軍拡 4面  
 横浜ノースドックに揚陸艦部隊が常駐 5面  
 危険極まりない原発運転期限撤廃 5面  
 写真構成:闘う世界の労働者・人民 6~7面  
 愛媛県で参政党が反中国の虚偽宣伝 10面



## イエメンに平和が近づいている

2015年に米国の武器提供を受けるサウジアラビア主導の軍事連合が、フーシ派によって政権から追放されたハーディーを支援し、イエメン爆撃を開始したことで拡大、何十万人もの犠牲を出してきたイエメンの残忍な戦争が終息に向かいつつある。イランのフーシ派支援で実質「代理戦争」の様相を呈していたが、今年3月の中国の仲介によるサウジとイランの関係正常化でイエメン情勢にも変化が生じた。写真は、4月中旬に実現した捕虜交換でサウジからイエメンに帰還し、家族や友人と再会する元被拘禁者(『ピープルズ・ディスパッチ』4月17日付、撮影=国際赤十字社)

## 国際メーデー一三七周年にあたって 戦争国家化反対の闘いに起ろう ストライキで闘う思想と体制の確立を！

### 春闘の情勢

支配階級がこの国を、軍事大国化の道へ、すなわち米帝国主義とともに、かつ、米帝国主義の手足として「戦争する国」たらしめ、無、突き進みつつあるまことにこのとき、われわれは国際メーデー一三七周年を迎えている。

岸田自民党・公明党連立政権は、ロシアのウクライナ侵攻を奇貨として、「台湾有事」なる虚構を打ち上げて防衛政策(軍事政策)を大転換した。敵基地先制攻撃を可能とし、防衛予算の上限も現在のGDP比一%から二%へと倍増した。宮古島など南西諸島の自衛隊配備も急ピッチで進められている。そして五月十九日から、西側帝国主義の軍事同盟の強化、戦争政策の共同推進を主要目的とするG7広島サミットが開催される。

第二インターナショナルが五月一日を万国の労働者の国際的示威日と定めた一九〇年の第一回国際メーデーは、「戦争に対する闘争を」常備軍を廃止せよ、一八時間労働制を、のストローガンを掲げた。

日本の労働者人民にとって、今はこのストローガンを喫緊の課題であるときではない。二〇二三春闘の賃上げ動向は昨年までとは大きく変わ

### 世界の労働者は闘う

本紙が報道してきたように、世界の労働組合、労働者は闘いの手を緩めていない。韓国に、労働者の要求実現は不可能だ。職場の仲間と語り合い、団結をつくり出し、賃金要求や生活改善要求を職場生産点を基礎に練り上げ組織していく、要求実現のためにストライキで闘える体制をつくっていく、そして反戦平和闘争や憲法改悪を阻止する運動を、われわれの主戦場である職場生産点を基礎として、いざというときにはゼネラルストライキで「ノー」を突きつけることのできる組織と運動を構築していかなければならない。そのためにも、いまはその実現への道筋はなお不透明だが、戦闘的、階級的な労働運動の指導部の再建こそが焦眉の課題だ。この課題を手放さない、志ある労働者、活動家、労働組合の交流と結集を強めていこう。

### 二〇二三年度HOWS前期開講講座

5月9日(火)18時45分〜(18時半開場)

## 憲法と沖縄とウクライナ

「いまこそ」政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こる、とこのないやうにすることを決意し「行動するとき」

講師 高良鉄美(参議院議員・会派「沖縄の風」)

### われわれの課題

傘下の大単産の多くが賃上げ要求を経済指標に従属させる思想にからめとられたまま「労使対話」を深めているのとは対照的に、全医労(全日本国立医療労働組合)、JMITU(日本金属製造情報通信労働組合)、郵政産業労働者ユニオンなどストライキを立てて春闘を闘った労働組合が存在したこと、全労連、全労協がストライキを打てる労働組合づくりに焦点を当てて取り組んでいることを評価する。大衆運動としての闘う労働組合運動の再生の可能性を、そこに見出すからだ。

労働戦線の右翼的再編の結果として、労働組合を中心とした大衆運動の方針と行動の統一が失われて久しい。メーデー集会は日にちすら奪って開催されている。

憲法に保障された労働三権、とりわけスト権を行使することなしに、労働者の要求実現は不可能だ。職場の仲間と語り合い、団結をつくり出し、賃金要求や生活改善要求を職場生産点を基礎に練り上げ組織していく、要求実現のためにストライキで闘える体制をつくっていく、そして反戦平和闘争や憲法改悪を阻止する運動を、われわれの主戦場である職場生産点を基礎として、いざというときにはゼネラルストライキで「ノー」を突きつけることのできる組織と運動を構築していかなければならない。そのためにも、いまはその実現への道筋はなお不透明だが、戦闘的、階級的な労働運動の指導部の再建こそが焦眉の課題だ。この課題を手放さない、志ある労働者、活動家、労働組合の交流と結集を強めていこう。

「吉良寛・自治体労働者」